

日本賃貸保証／戸建ゼロ円ゲット

# 家主の会、保証会社を訪問 経営方針、商品の理解深める



▶ 残置物を保管している倉庫を見学

「こちらの倉庫で入居者の残置物を保管しています」。1月13日、賃貸保証事業を手がける日本賃貸保証（以下、JID・千葉県木更津市）のスタッフが、家主への事業説明を兼ねて本社や関連施設を紹介しながら歩いてきた。



▶ 会社説明や保証業界の動向についての解説も行われた

が開催した見学ツアーの一場面だ。連帯保証人による保証に代わり、家賃滞納などのリスクに備える保証サービスの利用は一般的になった。一方、保証会社の経営方針や実際の保証範囲は会社によって異なり、想定していた保証を享受できなかった経験を持つ家主も増えている。

今回の見学ツアーは、ゼロイエの代表を務める杉田卓哉オーナーとカネコトムオーナーが、保証サービスや保証会社の取り組みについて理解を深めることを目的に、JIDと共同で企画したものだ。

参加した40人超の家主は、木更津市にあるJIDの本社社屋内を歩きながら実務に関する説明を受けた。本社に隣接する倉庫では、JIDグループで引越サービスを展開するムービングマスタージャパン（同）による残置物の保管状況を見学。入居者が残した遺骨などを供養する「永代供養墓」にも足を運んだ。その後、本社敷地内に立つ研修施設で、JIDの梅田真理子社長が保証事業に対する思いを、自身の経験を交えながら参加者に伝えた。

JID側の企画メンバーであるセールスリレー

シヨシップマネージャー・統括セールスマネージャーの木村聡志氏と、共戸祐太氏からは、保証業界の成り立ちや、利用が増えていることの背景、約款に起因するトラブルなどの解説もあった。

会社数も増え、保証市場が成熟期を迎える中、「何をどこまで保証してくれる会社なのか」を、オーナー自身が理解したうえで選択することの重要性は増しているといえる。滞納家賃を中心とする金銭債務の側面にかぎらず、生活困窮者の支援などを通じて賃貸借契約自体を保証しようとするJIDの取り組みを、会社見学ツアーという形で家主に伝えたことには意義があっただろう。

見学ツアー実施後、共戸氏は「会社のことをしっかり知ってもらった機会になった」、木村氏は「不動産業を知り尽くした創業者が立ち上げた当社だからその取り組みを伝えることができたと、それぞれコメント。ゼロイエの杉田オー

ナーは「会社やそこで働く人に実際に接することで深く勉強できた」、カネコトムオーナーは「家主として入居者の幸福は無視できない。入居者に安心してもらうための保証サービスであることを改めて理解した」と感想を述べた。